

## I-10.2050年の未来像を起点とした新たな研究開発領域の探索に関する企画・調査・運営・報告書作成業務

Exploring new R&D areas based on the future vision of 2050

<b>キーワード</b>	未来像、研究領域の探索
<b>Key Word</b>	Future vision, Exploring new R&D areas

### 1 調査の目的

国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は、2021年にレポート「『来るだろう未来』から『つくりたい未来』へ」を公開した。このレポートでは、今まで実施した26のワークショップで語られた、研究者や企業、NPO、市民など様々な方々の発言を元に、このまま進めば否応なく訪れる未来「来るだろう未来」と、こういう未来を迎えたいという思いをこめた「つくりたい未来」の2つの未来を導出し対比的に提示した。この取り組みは、18の機関等が集う「未来社会デザインオープンプラットフォーム（CHANCE）」が主体となり進められた。

本調査は、このレポートから「つくりたい未来像」を5つ設定し、そこに暮らす人々の生活や課題をありありと描き、その課題を解決する方法を探索する取り組みを行った。この一連の取り組みをまとめたものである。

### 2 調査研究成果概要

#### 2.1 調査の概要

以下の手順で調査を実施した。

- ・フェーズ1：全体プロセスの詳細設計、全体スケジュールの作成
- ・フェーズ2：5つの未来像に関連した蓋然性の高い未来情報などの収集・分析・整理
- ・フェーズ3：5つの未来像に関するワークショップの開催
- ・フェーズ4：ワークショップで導出された結果の検証、新たな研究開発領域の提案

#### 2.2 調査の内容

##### 2.2.1 5つの未来像

以下の5つの未来像を検討対象とした。

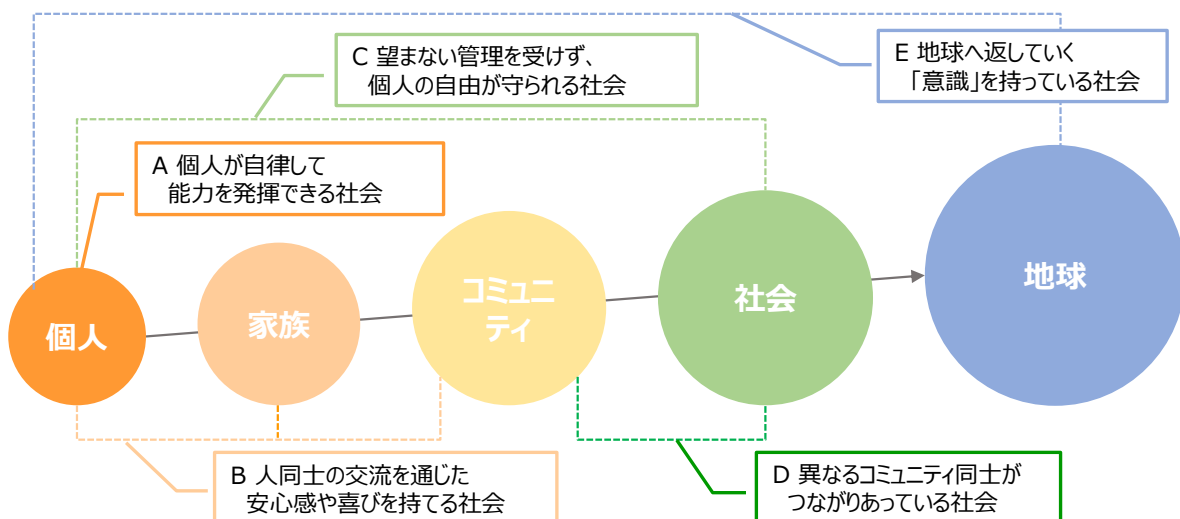


図 1 5つの未来像

### 2.2.2 ワークショップの開催

以下のようにワークショップを開催し、5つの未来像に対する議論を行った。

#### (1) ワークショップの参加者

- ・CHANCE 賛同機関、学生、JST 職員

#### (2) ワークショップでの検討テーマ

各未来像の検討テーマを以下の表にまとめた。

● 表 1 各未来像の検討テーマ

未来像	検討テーマ
未来像 A：人が自律して能力を発揮できる社会	環境変化にしなやかに適応しつつ、人が人らしく、自分がやりたいことを自分で見つけ、自分の力を発揮し、自己実現を図る社会をつくるには？
未来像 B：人同士の交流を通じた安心感や喜びを持てる社会	人同士の交流によって、誰しもが孤独感や不安を感じず、生きがいを持つことができ、安心感や喜びを得られる社会をつくるためには？
未来像 C：望まない管理を受けず、個人の自由が守られる社会	望まない情報への誘導や、望まない管理・監視を受けずに、個人の自由意志やプライバシーを守るためには？
未来像 D：異なるコミュニティ同士がつながりあっている社会	異なるコミュニティ間でのコミュニケーションの分断を緩和し、ゆるやかにつながっている社会を構築するには？
未来像 E：地球へ返していく「意識」を持っている社会	個人レベルの「意識」改革が求められる一方、個人の「意識」改革を通じたライフスタイルの転換のみでは持続性は確保できない。それを「社会」変革につなげていくためには？

#### (3) ワークショップの進め方

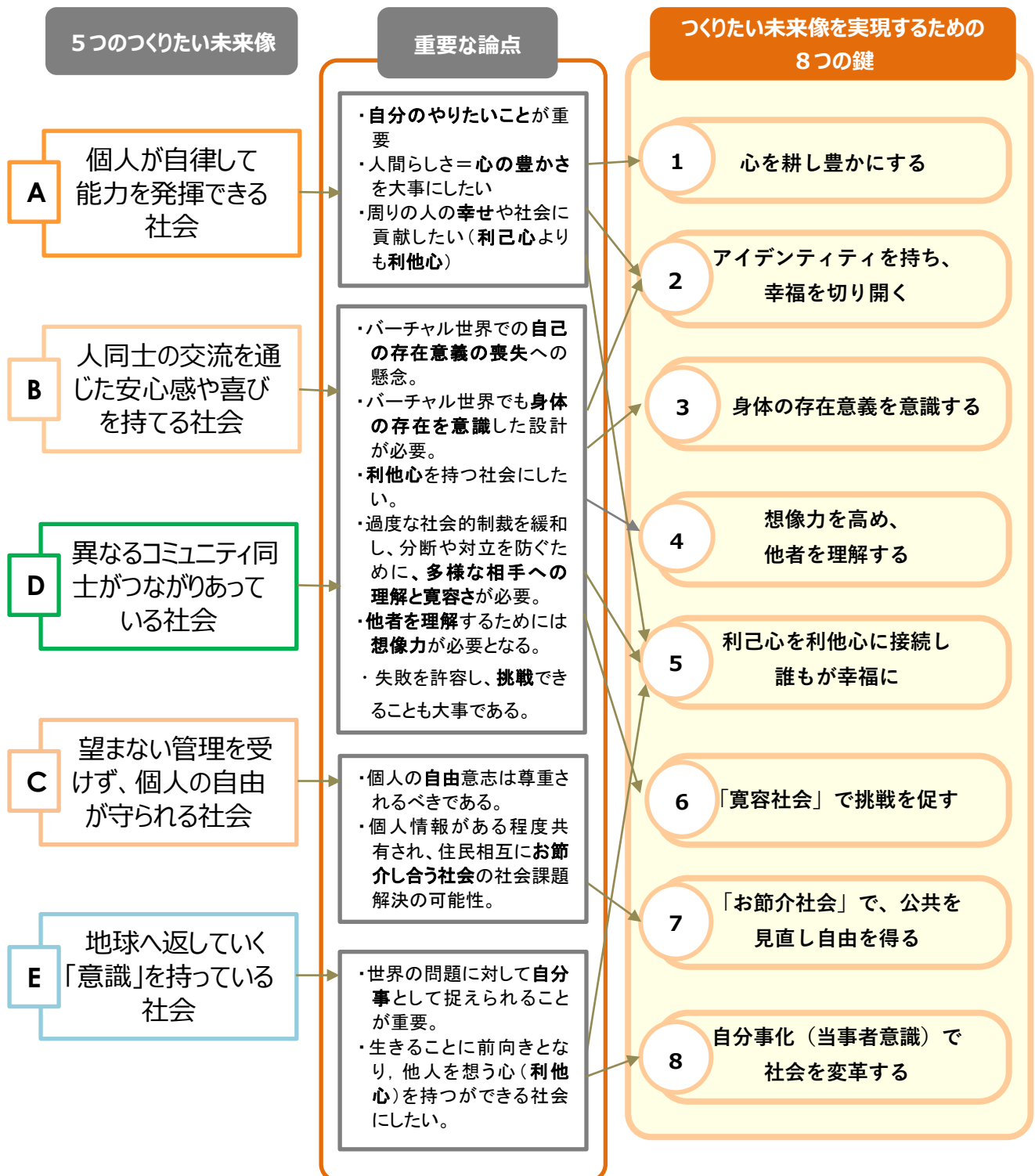
以下の図のようにワークショップを進めた。

● 表 2 ワークショップの進め方

	Day1 (2021年11月30日) 参加者数 33人	Day2 (2021年12月7日) 参加者数 35人
概要	5つの未来像の「自分事化」を通じ、CHANCEとして共有できるビジョンの具体化を行う。	CHANCEとしてのアクションにつなげるために、ビジョン実現に向けた取組みを検討する。
対話のポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者一人ひとりが持つ知見や経験を共有するとともに、それぞれの未来像に対する「期待」や「懸念」、「疑問」を出し合う。</li> <li>・全体でグループ対話の結果を共有した上で、参加者一人ひとりが思い描く具体的な未来像を自分の言葉で語る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未来像ごとに設定された「自分事の問題」を参加者一人ひとりが考え、グループとして「つくりたい未来像の再定義」と「重要論点の話し合い」を行う。</li> <li>・また、実現に向けて一緒に「取り組みたいこと」を話し合う。</li> <li>・全体でグループ対話の結果を共有した上で対話を深め、参加者一人ひとりが「次の一歩」への決意を表明する。</li> </ul>

### 2.2.3 ワークショップから導き出した8つの鍵

ワークショップでの議論を経て、5つの未来像を実現するための8つの「鍵」を導き出した。



● 図 2 5つの未来像を実現するための8つの「鍵」

### 2.2.4 研究開発領域の探索

前述の8つの「鍵」のうち、3つの「鍵」について研究開発領域の探索を行った。下表はその概要である。

● 表 3 3つの「鍵」についての研究開発領域の探索の概要

	リサーチ・クエスチョン	学問分野例
⑥寛容社会で挑戦を促す	「寛容」、「不寛容」を生むメカニズム、「寛容」を阻む要因は何か？	社会学、メディア学、人類学、認知科学
	「寛容社会」はどうやってつくればよいのか？目指すべき状態はどのような状態か？	社会学、法学、社会心理学、心理学、歴史学
	「寛容性」と挑戦やイノベーションとの関係や挑戦を促進する要素とは何か？	社会学、経営学、工学
⑦お節介社会で公共を見直し自由を得る	「お節介（他者を助ける）」のメカニズム、それを阻むメカニズムは何か？日本に固有の問題は？	社会学、経済学、人類学、脳科学、認知科学
	「お節介社会」はどうやってつくればよいのか？目指すべき状態はどのような状態か？	社会学、経済学、福祉、都市計画、教育心理学、工学、情報工学
	「お節介社会」の実現が、公共サービスや個人の自由意志の発揮にどのような影響を与えるのか？	社会学、経済学、社会福祉学、看護学、情報工学
⑧自分事化（当事者意識）で社会を変革する	「自分事化（当事者意識）」を生成するメカニズムやそれを阻むメカニズムは何か？日本に固有の問題とは？	脳科学、人類学、心理学、哲学
	個人の「自分事化」が進み、それらを方向付け、「自分達事化」するにはどうすればよいのか？目指すべき状態はどのような状態か？	教育学、環境学
	「自分事化（当事者意識）」、「自分達事化」を通して、よりよい社会実現のための持続的な社会変革推進の仕組みとはどのようなものか？	公共政策、システム工学、教育学、社会福祉学、家政生活学